

平成22年10月8日

報道機関各位

財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査平成22年9月東北分
(新潟を含む東北7県)」について

財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成22年9月東北分(新潟を含む東北7県)」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

【基調判断】

●今月の基調判断…東北地域の景気は「厳しさが続くなかで、持ち直しの動きに引き続き減速感がみられる」（据え置き）

- ・消費者の節約志向や雇用環境の厳しい状況が続くなかで、政策効果終了等の反動に対する懸念に加えて、政治や為替の動向から先行き不透明な状況に変化はみられず、総合的には、厳しさが続くなかで持ち直しの動きに引き続き減速感がみられると判断される。

【調査結果のポイント】

(1) キーワード

- ・プラスのキーワード…たばこ増税（現状）
- ・マイナスのキーワード…天候（現状）、為替（現状、先行き）、デフレ・低価格（現状、先行き）、エコカー購入補助金（現状、先行き）、たばこ増税（先行き）

(2) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「40.7」（▲2.2）は、2か月連続で前月を下回り、「横ばい」を示す50も2か月連続で下回った。
- ・家計動向は、エコカー購入補助金の終了や前年の大型連休の反動で需要が落ち込んだことに加え、月前半まで続いた残暑が季節商材の出足に影響し、消費者の低価格志向や節約志向も依然として続いている。DIは「39.2」（▲5.0）と2か月連続で前月を下回り、「横ばい」を示す50も2か月連続で下回っている。
- ・企業動向は、農産物（果物）等に動きがみられるものの、円高や前年の大型連休の反動などから受注・出荷・販売に影響が出ており、企業経営は厳しい状況が続いている。DIは「40.4」（+2.0）と前月を上回ったものの、「横ばい」を示す50は2か月連続で下回っている。
- ・雇用動向は、雇用環境は依然として厳しい状況が続いているものの、求人数や求人倍率、雇用調整実施企業数及び実施規模等で改善の動きもみられる。DIは「51.2」（+8.0）と3か月ぶりに前月を上回り、「横ばい」を示す50も3か月ぶりに上回っている。

(3) 先行き判断（3か月先の見通し、方向性）

- ・先行き判断DI「38.6(+1.0)」は、3か月ぶりに前月を上回ったものの、「横ばい」を示す50は5か月連続下回った。
- ・家計動向は、消費者の低価格志向や節約志向が続くなかで、秋冬に向けた季節商材や観光需要の動きに期待感があるものの、政策効果終了等の反動に対する懸念に加え、政治や為替等の動向から先行き不透明な状況は変わらない。DIは「37.6」(±0.0)と前月と変わらず、「横ばい」を示す50を下回っている。
- ・企業動向は、受注低迷や、民間設備投資の減少など厳しい状況が続くなか、為替の動向や政策効果終了の反動から売上や需要の落ち込みが懸念されている。DIは「39.1」(+0.1)と前月とほぼ変わらず、「横ばい」を示す50を下回っている。
- ・雇用動向は、求人の増加など一部で雇用改善が見込まれるものの動きは限定的で、為替動向や国内需要の落ち込みによる雇用への影響も懸念されている。DIは「44.0」(+8.8)で3か月ぶりに前月を上回るものの、「横ばいを示す」50を下回っている。

以上

<添付資料>

- 調査結果の概要

<お問い合わせ先>

財団法人 東北活性化研究センター（担当：木村）
〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10
TEL:022-222-3394 FAX:022-222-3395

【調査結果の概要】

1. 今月の基調判断

景気ウォッチャーの判断によれば、東北地域の景気は、厳しさが続くなかで、持ち直しの動きに引き続き減速感がみられるとのことである。

2. 今月のDI※

(1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、40.7（前月比▲2.2ポイント）と、2か月連続で前月を下回り、横ばいを示す50も2か月連続で下回った。

	21年					22年								
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東北現状	39.0	42.2	38.8	29.5	31.2	35.3	39.5	46.2	49.4	46.8	48.6	51.3	42.9	40.7
家計動向関連	36.9	42.0	37.1	27.4	29.5	34.3	38.4	45.4	46.9	44.3	48.3	51.8	44.2	39.2
企業動向関連	46.3	40.9	43.1	35.3	35.0	40.6	43.9	49.4	56.9	53.1	47.4	50.6	38.4	40.4
雇用関連(参考)	38.1	46.3	41.7	32.1	35.7	32.1	37.5	45.5	51.2	51.2	52.4	48.9	43.2	51.2

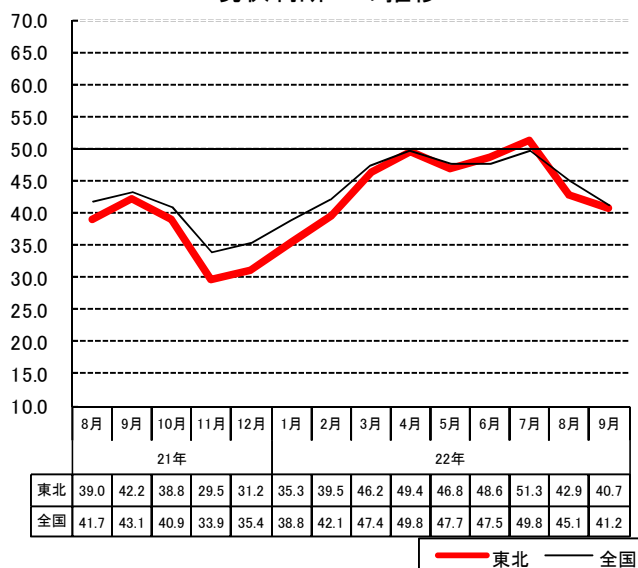
(2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、38.6（前月比+1.0ポイント）と、3か月ぶりに前月を上回ったものの、「横ばい」を示す50を5か月連続で下回った。

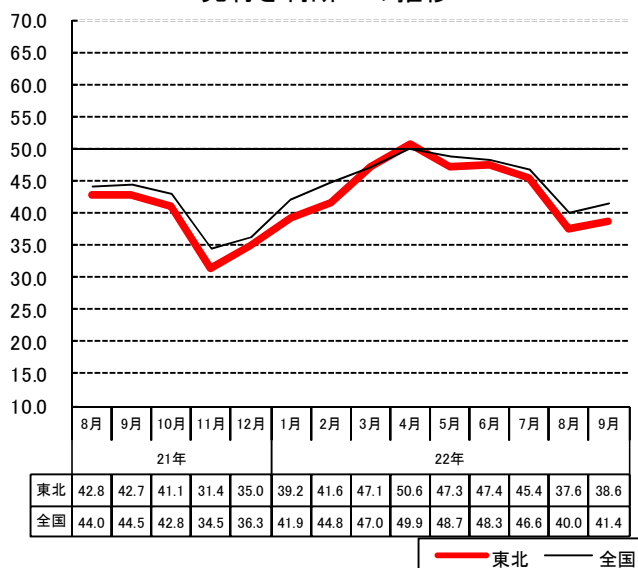
	21年					22年								
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
東北先行き	42.8	42.7	41.1	31.4	35.0	39.2	41.6	47.1	50.6	47.3	47.4	45.4	37.6	38.6
家計動向関連	42.3	42.5	40.4	30.9	33.6	38.3	40.3	46.5	50.4	46.3	46.5	44.0	37.6	37.6
企業動向関連	45.0	42.1	41.9	32.1	36.9	45.0	45.1	48.1	50.6	49.4	47.4	48.1	39.0	39.1
雇用関連(参考)	41.7	45.0	44.0	33.3	40.5	33.3	43.8	48.9	52.4	50.0	53.6	48.9	35.2	44.0

※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



先行き判断DIの推移



3. 調査の概要

調査期間 平成22年9月25日～平成22年9月30日

回答者数 201/210名、回答率95.7%（全国1,862/2,050名、90.8%）

4. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「良くなっている」

（衣料品専門店）…40代以上の客を中心に、秋物が好調に動いている。例年より気温が高いなかで、変化を求めている消費者の動向が表れている。

○「やや良くなっている」

（コンビニ）…10月からの値上げを前に、たばこの売上が伸びている。

（旅行代理店）…海外旅行商品の販売量が伸びている。

（農林水産業）…9月に入っても猛暑が続き、果物の主力である桃や梨の品質が非常に良くなっている。特に梨の販売価格が前年比で3割程度増加しているなど、農協出荷の販売価格も近年見られなかったほど良い状況が続いている。

（人材派遣会社）…販売、サービス、外食産業の派遣や契約社員の雇用が増えてきている。

（職業安定所）…新規求職者は前年比増減はあるものの、有効求職者は8か月連続で減少している。一方、新規求人は前年比7か月連続で増加しており、有効求人倍率はわずかながら上昇している。

○「変わらない」

（商店街）…残暑の影響でなかなか秋物商戦に入れず、衣料品関係の店が苦戦している。下旬になりようやく秋らしくなったが、前半の売上の落ち込みをカバーできずにいる。

（スーパー）…野菜の高騰とたばこのまとめ買いが下支えとなり、9月の平均単価は既存店で前年並みとなっているが、そのほかの商品の平均単価と販売動向に大きな違いは出ていない。また、月前半までは猛暑が続いたこともあり、売上は前年を上回ったが、一時的な現象である。

（コンビニ）…来客数は猛暑の影響で9月中旬まで増加傾向にあったが、それ以降は急激な気温の低下もあって一気に減少している。また、たばこの値上げ前の買いだめ需要もあって、見かけ上の客単価は上昇し、売上も増加しているものの、来客数は実態を伴っていない。

（家電量販店）…リサイクルポイント対象商品は好調に推移しているが、商品単価が下がっているため、売上は低迷気味となっている。

（ガソリンスタンド）…猛暑の終わりとともにガソリン需要は減少しており、販売単価を下げようとする動きが出てきている。そのため、燃料油の-marginが低下し収支が悪化しており、不採算店舗を閉鎖する動きも出始めている。

（一般レストラン）…客は価格に敏感で、安くすると来てくれるが、他店が安くするとそちらに流れてしまう状況にある。

（観光型ホテル）…夏と秋の観光シーズンの狭間であるため、大型連休の2日間以外は、土曜でも空室がある。また、暑い夏の影響で温泉利用の旅行マインドは低くなっている。加えて、団体客が依然として少なく家族連れが主流のため、館内消費は伸びず、入込、売上共に前年比で約10%減少している。

（土石製品製造販売業）…海外の支店でも円高が大きく影響し、景気回復を見込んだ発注工事も大幅に減っている。

（新聞社〔求人広告〕）…求人数は8～9月を底に多少上向いてきているものの、大手流通など地元企業以外の求人が多く、当地域においては、落ち込んだ状態が続いている。

（職業安定所）…新規求人数は増加傾向にあるが、期間の短い臨時求人が増加しており、景気が上向いているとはいえない。

○「やや悪くなっている」

（医薬品販売店）…来客数は過去最悪を更に割り込んでいる。客は包装の小さいもの、安いものを選択する傾向にあり、単価の高い客層の来店回数は減少している。

（百貨店）…9月前半は非常に気温が高く、本来売れなくてはならないものが苦戦している。中旬以

降は、気温が一気に下がり、需要は少しずつ伸びてきているものの、客単価はなかなか上がらず、売上は総体的に苦戦している。

(衣料品専門店) …猛暑の影響により、秋物の立ち上がりが非常に遅れており、特にビジネスマンの来店が少なくなっている。

(家電量販店) …天候が不安定で気温の寒暖が激しいため、季節商材の動きがとまり、商品が思うように動いていない。

(観光型旅館) …高単価な個人客の増加により、総宿泊単価は前年比で増加している。ただし、従前主力としてきたバス旅行に動きがない。また、募集型団体旅行は競合により単価の値下げ攻勢が強く、総売上高は減少が続いている。

(都市型ホテル) …18~20日の3連休は売上が大きく伸びたものの、その後はぱたっととまっている。消費者の防衛意識は高く、基本的に余計な支出はしない傾向が見られる。

(一般機械器具製造業) …自動車部品については、やや減少傾向にあることに加えて、為替水準が採算ラインを割り込んできている。

(建設業) …人口が減少し景気も悪いため、高額な新築は敬遠され、受注はリフォーム工事のみの状況である。

(経営コンサルタント) …東北地方は輸出関連の下請企業が多く、円高で大きな影響を受けている。

○「悪くなっている」

(乗用車販売店) …エコカー補助金終了後、新規来客数が減っているのに加え、購入を急がなくなっているため、週を追うごとに受注ペースが落ちてきている。

(食料品製造業) …前年は大型連休が長かったため観光客も多かったが、今年は飛石連休で売上は2割近く落ちている。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(百貨店) …残暑の影響で今まで秋物を買って控えていた客の来店が予想される。比較的暑い時期から、秋冬のトレンドへの変化はうかがえるので、気温の低下にあわせて盛り上がることを期待される。

(衣料品専門店) …天候要因により秋物衣料は出遅れ気味であるが、気温が急激に下がってきたので、単価の高い防寒衣料の動きに期待が持てる。

(家電量販店) …エコポイントが延長されることになり、駆け込み需要が期待される。

(旅行代理店) …10、11月の国内個人旅行の先行受注で若干の回復が見られる。また海外旅行は、12月までの先行受注でみると前年同期比 150%と大きく上回っており、国内海外共に申込状況は回復してきている。

(広告代理店) …新幹線の青森延伸開業に向け、印刷物等の告知物の受注が期待される。

(人材派遣会社) …住宅業界を中心に営業職の募集が増えつつあり、今後も期待が持てる。

(新聞社 [求人広告]) …12月から来年にかけて、自動車関連工場の本格稼働や、エレクトロニクス産業関連企業の工事着工に伴い人の動きが出てくるため、多少は景気が上向くのではと期待している。

○「変わらない」

(百貨店) …残暑の影響のみならず、客の生活防衛意識が更に強まっているため、回復の見通しがたたない。

(スーパー) …競合店も低価格化を強めていて、客が店舗間を買い回りの傾向が見られることから、1品単価が前年を下回る状況は続く。

(スーパー) …食品は、天候要因から売れる商品が前期と全く異なっており、今後も野菜、果物等の農産物の収穫量や水産物の漁獲量によって変動することが予想される。

(観光型旅館) …秋の紅葉シーズンに向けて集客の期待はあるが、客もインターネットなどで一番きれいな時期を調べて直前に予約するようになっており、10月末前後の20日間以外は、予約が大きく落ち込むようになってきている。現状の様子では前年並みに回復する見込みは薄く、売上は前年を下回ることが予想される。

(ガソリンスタンド) …冬場の需要期に向かい、販売価格の値上げが必要であるが、価格形成に失敗すると業界全体の落ち込みが顕著になる。エコカー購入補助金の影響で新車販売が好調だったことから、それに伴う冬場のタイヤ販売に期待しているが、追加の景気対策がどのようになるかで業界の景気が大きく左右される。

(旅行代理店) …中国との間で尖閣諸島の問題が出てきたこともあり予断を許さない状況となっているが、海外旅行商品は販売量の伸びが期待できる。

(タクシー運転手) …客が減少しているのに車の台数は変わらないため、厳しい状況は続く。

(コピーサービス業) …企業では経費を抑えようとする様子がうかがえ、小物の売上が予想より伸びていない状況にあるため、必要最低限のものしか購入しないという状況は今後も続く。

(職業安定所) …求人数は前年比で増加しているものの、正規雇用の求人は伸びていない。

(職業安定所) …新規求人は増加傾向にあるものの力強さがなく、新卒者向けの求人も低調な状態がしばらく続く。

○「やや悪くなる」

(百貨店) …今後、気温が例年より高めに推移する予報が出ているので、秋冬物の動きがどうなるのか不安である。

(コンビニ) …増税前の駆け込み需要の反動でたばこの売上が落ちるのは確実だが、たばこの購入を目的とする客と一緒に買っていた缶コーヒー等の需要も落ち込み、この先3か月くらいの売上は、たばこを除いても非常に厳しくなることが予想される。

(衣料品専門店) …景気の先行きに不安を抱いており、ビジネスマンに関しても買い控えの傾向が強くなると予想される。

(都市型ホテル) …新幹線の延伸開業によるシャワー効果が期待されるが、実際には当県への入込客が減少することが懸念される。

(電気機械器具製造業) …政府の景気対策であった、エコカー購入補助金の終了に加え、家電エコポイントも延長後は対象商品が限定されるため、消費意欲は減少傾向に向かい、景気は全体的にやや悪くなることが予想される。

(金属工業協同組合) …半導体関連の受注量と単価が減少したことに加え、コストダウンの要請もあり、先行きは不透明である。スポット的にヨーロッパ向けの建設機械が10~12月まで増産となっているものの、生産量は総じて減少傾向が続く。

(職業安定所) …新規求人は増加傾向にあるが、先行きの不透明感から有期雇用が多くなっている。また、製造業では円高の懸念が広がっている。

○「悪くなる」

(スーパー) …10月以降、増税によりたばこの買い控えが予想される。また、今年は米の豊作が見込まれるため、価格は下落傾向が続く。

(乗用車販売店) …エコカー購入補助金終了後の落ち込みは予想以上である。個人需要の落ち込みは見込んでいたものの、景気の低迷で、安定的な需要として考えていた法人需要にも陰りが出ており、この先数か月の販売量は前年比60~70%前後になる見通しである。

(食料品製造業) …需要期ではあるものの、現時点では消費の回復、拡大は不透明である。また、新製品の企画の要望はあるが、コスト面で非常に厳しい状況にあり、対応が難しい。